



## 坂野中学校の思い出

第23回卒業生 大和 忠 広

思い返せば早いもので、坂野中学校を卒業して四十年余り、いや五十年足らずといった方が、同窓生には賛同を得られるように思います。私たちは団塊の世代、いわゆるベビーブームが一段落した、昭和29年・30年生まれで、29年が午年ということも有り出生率が低く、近年にない少ない入学生徒数であったように記憶しています。D組までしかない学年でした。1・2学年上も下もE組それ以上でした。運動会の時に、はちまきの色数が違っていました。確か、えんじ色のはちまきがありませんでした。運動場の北側に木造校舎があり、職員室、私たちの一年生の教室も古い木造でその並びにありました。そして木造の古い講堂が職員室棟の東側にありました。その隅っこに体育クラブの部室があって、汚いそれは汚い部屋でした。体育館はまだなくて、バレーボールは運動場の東の端、講堂の前にあったコートで練習や試合をしていました。運動は今の様にジャージではなくて、トレパン・トレシャツでした。白の体操服がすぐに茶色になってしまうんです。今はバレーボールで体操服に土汚れがつくなんて考えられないことなんでしょう。校舎の周りは田んぼばかりで、しっかり前を向いて自転車をこがないと田んぼに落ちることもありました。校舎の西の端に音楽室があって、入学すると4月は、校歌の練習ばかりであったように思います。今もそうしてるのですか。現在の鉄筋校舎の古い部分はその頃からあって、その東側と北側に教室、図書館、それに家庭科室がありました。現在の体育館の場所は、体育の時間にソフトボールをしていた場所です。

目を閉じるといろいろなことが、学校の施設と共に思い浮かびます。古い木造の講堂ですがこんな事がありました。ある時その古い建物のガラスが沢山割られたことがありました。それも体育館が新設され余り使われていないにも関わらず、その事件は起こりました。

当時の湯浅藤吉校長先生は、全生徒を新体育館に集めてこう言いました。「講堂のガラスを割った不届き者がいる。その者を探し出すことより坂中生の皆さんに言いたい。坂中健児がんばれ。」なぜか、坂中健児がんばれだったですね。その不思議さに心の底から愛校心がふつつつとわき上がるのを感じました。坂中生として坂中健児として何かしなければならぬ。答えを返すのは今しかない。このことが、坂野中学の文化祭につながっています。

またこんな事もありました。場所は、家庭科室です。二年生は全員だったかな、家庭科室に集まって、テレビを見ました。それは、夏休みの宿題の工夫作品が全国一に成って、テレビで放映されるという事で、画面を全員神妙にのぞき込んでいました。すると、いつも教室でふざけ合っている同級生、佐川くんがそちらも神妙な顔つきでアナウンサーのインタビューをうける光景が映りました。水に溺れている人を発見すると、自分のベルトを外して、バックルを強く引くと救助ひもに使えるというもので、すごい奴が同級生にいたんだなあと思ひます。校門の横に名前と功績を刻んだ石柱が、今も誇らしげに立っています。このことは、同級生の誇りであり、長い坂野中学校の歴史の中で、私たちがその学校で遊び、学び、悩み、生活をしたという証でもあります。

この度、坂野中学校が、立江中学との統合により、その長い歴史に終止符が打たれるとのこと。校舎は木造から鉄筋になり、沢山の生徒・先生が行き交い、大声で笑い、涙を流し、友とのふれあいに悩み、成長し、時代の変遷の中で、その時その時の時間を全ての関係者により、紡いできたこの歴史の一糸として、今、コメントを許される光栄に感謝、合掌し、新中学校の前途に幸あらんことを祈念します。